

「引きこもり」は「問題」なのか？

太田 近ごろ、「8050問題」といって、高齢の親が、「引きこもり」になった中年の子どもへの面倒を見ることが社会問題になっていきます。二〇一九年五月には、川崎市でスクールバスに乗り込もうとした子どもたちが、引きこもりの男に襲われた通り魔殺傷事件がありました。さらにその翌月には、元農林水産省事務次官が、同じく引きこもりの息子を殺したというニュースが飛び込んできました。これらの事件をきっかけに、世の中が急速に、大人の引きこもりについて注目するようになったと思います。

俺も高校時代、引きこもりではないけど、三年間、誰とも口を利かずに過ごした時期があったんです。だから、他人事ひとごとではないというか、誰ともコミュニケーションが取れなかった経験があるから、引きこもる人たちの気持ちもわからなくもない。でも、今、世の中で議論されていることは、何とか少しズレてる気がするんです。そもそも、コミュニケーションとは何なのか、引きこもるといふことは果たして問題なのか、そういうところから山極先生とお話ししてみたいと思って、今回、対話の機会を頂きました。

山極 確かに、引きこもり≡問題、と捉えるのは違うと思います。引きこもりだからといって、事件を起こすわけではない。それは当然のことです。ただ、外に出られなくて、親も子ども自身も苦しんでいる。でもね、僕は、引きこもりというのは今の時代に特有の現象で、しばらくするとなくなるんじゃないかと思っっているんですよ。

太田 言われてみれば俺が高校生のころは引きこもりなんて言葉はなかったし、実際に引きこもってるやつもそんなにいなかった。一体いつぐらいから、引きこもりが増えてきたんでしょうね。俺は先生と反対で、これからもっと増えるんじゃないかと心配してるんだけど。

山極 おそらく一九八〇年代から増え始めた現象で、それも男性に多くて、ここ何年かで社会問題化してきたと思います。なぜ、引きこもりが増えるのかといえば、人間と人間の生のつながりが失われているからです。インターネットが普及し始めて以来、個人がそれまでのつながりを失い始めて、一人ひとりばらばらにされてしまった。今はスマホに代表されるICT（情報通信技術）によって新たなつながりが作られている時代です。これまでのような、手触りの感じられる人と人とのつながりから、別のつながり方への転換期に

差し掛かっていると思います。

人が引きこもる理由

太田 それは、いいこととはとても思えないんですが……。

山極 いいか悪いかはいったんおくとして、なぜ引きこもるのかを考えてみたいと思うんです。僕は今、端境期だと考えています。インターネットが普及する前は、身近な人との間に身体的なつながりがあったと思います。だからこそ、人とリアルに接するのが好きではない人、人付き合いの苦手な人が引きこもってしまった。けれども、これからは人と接しなくても不自由なく生きていけるようになるでしょう。

太田 身体的なつながりがなくても生きていける、と？

山極 そう。身体的なつながりではなく、AI（人工知能）やICTを活用して人と人は「脳」でつながるようになりつつある。その背景にあるのは「そもそも人間は情報機器によってつながって存在だ」という新しい概念です。だからこれからの人間は情報機器によってつながっていればいいと考える。他者と切り離された関係性が当たり前になれば、他者の目に映る自分

の姿などに悩む必要もなくなり、煩わしい生の人間関係もなくなりますから、心穏やかに生きていけるんじゃないか。みんなが引きこもって生きていくのだから、わざわざ、引きこもりなどと問題視することもなくなると思います。

太田　それで本当に人は生きていけるんですか？

山極　今、引きこもりでつらい思いをするのはなぜなのか。それは今も、身体性を通じた社会的なつながりの中で自分を見出すのが一般的だ、という考え方に支配されているからだと思います。これは生身の人間同士の付き合いを前提にした「古い」考え方なんですよ。

これに対して「新しい」人間が出てくれば、もうそんな生身のつながりなんてどうでもよくなる。例えば、実際の世界では自分の代理となるアバターを活躍させ、自分は好きな場所においてその情報操作をしていればいい。新しい人間は情報機器の中だけで自分を表現し、その世界の中でつながりを作ることに生きがいを感じる。そうなれば引きこもりなんて概念そのものがなくなるんじゃないか、というわけです。

もうセックスする必要はない？

太田 理屈としてはわからない話ではないですが、それはいいことなんですか？ 俺なんかは、そんな生き方というか社会はあんまり幸せとは言えないと思うけど……。

山極 実際からだに身体でつながるといのは、結構面倒なんですよ。人と一緒に何かしようと思つと、時間と場所を共有して、なおかつ顔をつき合わせて会話しなければならぬでしょう。ときには一緒に食事もしなければならぬ。そういう関係性をものすごくつらく思う人たちがいる。だから一人でメシを食う「ぼっちめし」が良かったりするわけでしょう。なぜ、つらいのかといえ、自分をリアルな場で演じなければならぬからです。ところがインターネットを使えば、リアルな場にわざわざ身をさらさなくても、いかようにでも自分を表現できる。そうなつたら身体なんて持たないほうが幸せなんじゃないか。

太田 ちょっと待ってくださいよ。生身で触れ合わなくなるってことは、もうセックスもしなくなるわけですか？ そんな未来、俺は絶対に嫌だな。

山極 わざわざセックスなんてする必要はないでしょう。今の時代、やりたいならVR（バ

「チャル・リアリティ」の中でいつでも好きにだけ仮想セックスできるわけです。わざわざ生身の身体を使って人と触れ合うことなんか望まなくなるんじゃないか。むしろそんなの不潔だと感じる人も増えていくだろうし。

太田 確かに、「草食系男子」はその先駆けかもしれない。でも、もしほんとにそうになったら人類が絶滅しますよ。

山極 僕はね、そうとも言えないと思っているの。要は人類が、「脳化」した新たな存在に変わるといことです。今の医学なら、セックスしなくても子孫は残せます。またそれに対して、抵抗感もなくなってきた。セックスは、究極の生の人間関係です。今、それを面倒に感じる人が増えている。しかも、技術の進歩でそういう生々しい部分を外部化することが可能になった。もちろん、不妊治療を受ける人にとって、こうした生殖医療は福音です。しかし、本来ならば不妊治療を受ける必要がなくても、セックスが面倒だからといって、医療の力に頼る人も出てくるでしょう。

太田 セックスも面倒に感じる、と。それが極限までいくと、ユートピアじゃなくてディストピアになりかねないんじゃないですか。

山極 もちろん、「新しい」人間ではない僕にとって、そんな未来はディストピアでしかないですよ。

ディストピアの原因は「言葉」にある

太田 では、先生はそうなるのがいいとは、決して思っていないわけですね。ちょっと安心しました（笑）。

山極 もちろん望ましい未来だなどとは、まったく思っていないませんよ。ただ、なぜこんなふうになってしまったのか、元を突き詰めていけば、そもそものきっかけは「言葉」にあると考えざるを得ない。人は言葉を持ってしまい、その効用の時空を超える広がりという側面を伸ばそうとしたために、ついに他者とのつながりをバーチャルに拡大するようになってしまった。その行き着く先が今の情報社会に至り、人間自体を情報化する未来へつながっている。そう考えれば、現状にも、あるいはディストピア的な未来予想図にも、ある種の必然があるとも考えられるんです。

太田 なるほど。それは興味深いですね。引きこもりの問題も、人間の未来も、言葉が鍵

を握ると。最初の話題に戻りますが、俺が高校時代に誰とも口を利けなくなつたのも、まさにその言葉を失つたことが大きいんです。でも、あることがきっかけで言葉を取り戻した。それは追い追い話すとして、確かに、言葉についての思索を深めていけば、今、起きているいろいろな現象も、理解できそうな気がしますね。